

4-1-16 医療情報室

大原信

平成 15 年度も医療情報室は大原・相澤の二名構成で人事に変化はなかった。成育医療センター病院も開院 2 年目を迎え、医療施設の医療情報室としてのあり方を模索する一年であった。それぞれが、それぞれの課題に精力的に取り組んでいる。

本年度も「電子カルテ」はシステムの不具合を継続的に是正しつつ運用し、概ね順調に稼動していると判断している。今後もインターネット環境のセキュリティ保持などの課題を克服しつつの運用が必要である。

平成 15 年度の新たな取り組みとしては、以下のものが上げられた。

1. 情報関連業務

1.1 成育医療研究所との連携

成育医療研究所の建設に伴い、病院と新研究所のネットワーク構成などの検討を研究所委員会情報部会に参加して行った。

1.2 長期診療DBの実運用

電子カルテに蓄積された診療データを用いて臨床研究、病院経営管理など活用する長期診療データベースを構築・運用している。このシステムは長期間にわたり利用者が目的に応じて診療データや医事データを組み合わせて検索・解析できるようになっている。昨年度まで、「診療情報の 2 次利用規定」の下で計 32 件の利用申請があり、利用者のニーズに対しデータを提供し、臨床研究に支援する環境が整いつつある。

2. 研究活動

2.1 成育受託研究「成育コホート」の実稼働

室員の相澤が分担研究員として、電子カルテを用いてコホート研究の実施に取り組んでいる。電子カルテに蓄積されたデータから妊娠・出生・幼児までの長期追跡に必要なデータを取り出し、コホート研究用データベースを考案している。この研究はその内容と共に、今後の「電子カルテ」上の臨床研究の一つのモデルを提示するものとして、非常に注目されている研究である。

2.2 成育医療情報ネットワークを活用する共同研究の実施

オラクル社との共同研究として、複数医療施設間での臨床データ共有化に関する研究を行った。国立病院ネットワーク(HOSPnet)の環境を利用し、国立病院機構三重中央医療センターとの情報連携のための模擬的なデータベースを構築し、臨床データの病名コード統合化について具体的な検討を行った。

以下、継続した医療情報室の活動内容である。

1. 国立成育医療センター病院情報システムの維持管理

- (ア) 情報システムの維持管理
- (イ) 電子診療録の管理
- (ウ) 院内向け HP の管理運営
- (エ) 各種マスタ管理
- (オ) 職員情報システム ID の管理
- (カ) 院内情報機器 IP アドレス管理
- (キ) インターネット環境のセキュリティを含む維持管理

2. 成育医療長期診療DBの維持管理運用

- (ア) 臨床研究のためのデータ抽出ツールの作成

- (イ) 経営管理面のデータ提供・分析研究
- (ウ) 国立大蔵病院・国立小児病院の過去データの管理
- 3. **成育医療ネットワークの維持管理**
 - (ア) 臨床データの収集
 - (イ) 試行用 HP の管理
 - (ウ) 病名標準化
- 4. **サブセンター成育の運営管理**
 - (ア) HP の作成・更新（各種名簿など）
 - (イ) ML の運営管理（院長・副院長協議会、各研究班など）
 - (ウ) 臨床データ収集システムの開発・運営管理
（肝疾患死亡者登録、肝硬変患者データ登録、健康危機管理など）
 - (エ) 標準マスターの提供（病名、医薬品、医療材料など）
 - (オ) 国内外医学関連情報の提供
- 5. **成育医療関連情報の収集・発信**
 - (ア) 院外向け HP の運営管理
 - (イ) 国内外最新の成育医療に関する情報を収集し、全国成育医療関連施設に提供
 - (ウ) メールマガジンの発行（医療施設向け・一般患者向け）
- 6. **職員への情報研修・教育**
 - (ア) 情報倫理・医療安全研修の実施
- 7. **成育情報システムの紹介**
 - (ア) 見学・視察への対応
 - (イ) 厚生労働省からの依頼
- 8. **新しい医療情報技術の研究（個人情報保護、医療情報標準化など）**
- 9. **電子カルテ上の臨床治験実施への対応**
 - (ア) 治験テンプレートの電子カルテへの展開
 - (イ) 治験モニタリングへの協力・資料打ち出し

医療情報室は2名体制のため、運営部調査課、政策医療企画課、治験管理室などと協力体制を構築して業務に当たっているのが、現状である。診療データは急速に増加しているため、今後の医療情報室の役割も益々重要となろう。